

研修期間：令和 8 年 2 月 15 日～2 月 23 日

所属：名城大学薬学部薬学科

学年：5 年

学籍番号：210973331

氏名：岡本華歩

1. 参加目的

薬局および病院での実務実習を通して日本における薬剤師の役割について理解を深めた経験を踏まえ、日本の医療現場とアメリカとの違いを実際に見て学びたいと考えたから。また、薬学教育制度や臨床に関わる体制が日本とどのように異なるのかについても理解を深めたいと考えたから。

2. 研修内容

【研修テーマ】アメリカにおける薬学教育、医療体制、薬剤師の役割について学ぶ

【研修日程】

月日	研修内容
2 月 16 日	アメリカにおける薬学教育、感染症および HIV/AIDS、インドからアメリカへ、アメリカの医療制度、UA Student Union の見学
2 月 17 日	コミュニティ薬局、世界の薬学教育・研修：サウジアラビア、Banner-University Medical Center の見学、患者アセスメント；市中肺炎の症例レビュー
2 月 18 日	毒物センターの見学、救急医療薬学、症例検討、医療書店の見学、レジデント継続教育の発表
2 月 19 日	CVS 薬局見学、薬剤師主導の患者志向型研究、症例ディスカッション、発表準備
2 月 20 日	アメリカにおける薬剤経済学、高齢者医療の視点、薬学博物館の見学、世界の薬学教育・研修：エジプト&カタール、発表

【研修内容の詳細】

アメリカの薬学教育は、2 年間の Pre-Pharmacy 課程修了後、4 年間の専門課程に進学する制度である。特徴的なのは、実務実習がカリキュラムの約 30%を占めている点であり、1 年次から初期実務実習が開始され、長期療養施設、コミュニティ薬局、病院などで実務経験を積む。3 年次終了後には発展実務実習へ進み、より高度な臨床判断能力や実践的スキルを身につける。アメリカは、先進国の中で唯一、国民皆保険制度を採用しておらず、公的保険は存在するが、主に低所得者や高齢者を対象としている。それ以外の国民は民間保

険に任意で加入する仕組みである。そのため、日本と比較して医療機関へのアクセスが容易ではなく、医療費も高額になる傾向がある。CVS 薬局には「MinuteClinic」と呼ばれる簡易診療所が併設されており、かかりつけ医の予約が取りにくいことや、救急外来の受診費用が高額であることを背景に、安価で迅速、かつアクセスしやすい医療サービスとして機能している。診療は医師ではなく、NP や PA が担当し、風邪などの軽症疾患に対応している。また、薬剤師やテクニシャンは、ワクチン接種を行うことが可能であり、日本との大きな違いの一つである。さらに、テクニシャンがピッキング業務を担う体制が整っている。大学内にある毒物センターでは、サソリやヘビ毒、薬物の過量服用など、多様な中毒症例に対応している。自宅対応と病院対応の両方を行っており、軽症例はできる限り自宅で安全に管理することで、不要な ER 受診を減らし、医療機関の負担軽減にも貢献している。インド、サウジアラビア、エジプトからアメリカの薬学部留学している学生による講義を受け、各国で教育制度や薬剤師の役割が異なることを学び、薬学教育は国の医療制度や社会背景と密接に関連していることを学んだ。

3. 感想

今回の研修を通して、アメリカの薬学教育や医療体制の特徴を実際に体感することができた。特に、1 年次から実務実習が始まるなど、早期から臨床現場に触れながら段階的に能力を高めていく教育体制は非常に印象的であった。知識だけでなく、実践力を重視する姿勢を強く感じた。また、MinuteClinic の仕組みは、安価で迅速かつアクセスしやすい医療サービスとして機能しており、地域医療を支える重要な存在であると感じた。一方で、看護師や NP、MD が一定の処方権を持つ体制の中で、薬剤師の役割とは何かを改めて考えさせられた。だからこそ、薬剤師にしかできないことを追求していく必要があると感じた。また、テクニシャン制度の充実により、薬剤師が患者とのコミュニケーションにより多くの時間を割ける点は、日本にとっても参考になる制度だと感じた。薬局見学では OTC 医薬品の種類の多さにも驚いた。フレーバー付きの PPI や大容量のアセトアミノフェン、麻薬検査キットなど、日本ではあまり見られない商品が並んでおり、医療やセルフメディケーションに対する考え方の違いを実感した。さらに、市中肺炎の症例検討を英語で行うことは難しさもあったが、薬剤選択の考え方や「患者のために最善を尽くす」という姿勢は日本と共通していると感じた。言語や制度が異なっても、患者中心の医療という本質は変わらないことを学んだ。授業以外でも現地の学生と交流し、将来像や学習環境について意見を交換できたことは大きな刺激となった。今回の研修を通して、将来薬剤師として何ができるのか、そして社会から何が求められているのかを改めて考える貴重な機会となった。最後に、このような機会を頂き、様々なサポートをしてくださった皆様に心より感謝申し上げます。